平成　27　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4790500054		
法人名	社会福祉法人善隣福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所　愛誠園		
所在地	宜野湾市伊佐2-1-6グランドステージMG地下1階		
自己評価作成日	平成27年11月27日	評価結果市町村受理日	平成28年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4790500054-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10－25　1F
訪問調査日	平成27年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

○利用者が生き生きと生活できるよう職員1人1人が気配りししている。
○寝たきりの人もラジオ体操に参加してもらい、その場の雰囲気を味わってもらようにしている。

事業所の理念「個性を尊重し、持っている力が発揮できるよう」を基に、管理者が中心となって職員間で情報共有を図り、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望等の反映に努め、利用者本位の支援に繋げている。又、食事は利用者の好みの献立に反映させ、食欲がでるよう工夫が行われている。更に3食事業所で職員が調理し職員はその日のメニュー等の話を利用者としながら美味しいものを楽しく食べている。前回の外部評価の目標達成の取り組みも実施され災害時の地域住民の訓練への参加や身体拘束をしないケアについてやむを得ず身体拘束を行う場合の拘束に係る一連の手順を踏まえて対応している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

確定日：平成28年　1月13日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	トイレや玄関に掲示して何時でも意識出きるるようにしている。個人の気持ちを尊重して、その人らしい生活が出きるよう実践している。	理念は職員間で見直しもあり、事業所内に掲示して常に確認できるようにし、家族や地域へも毎月のホームだよりに掲載し周知している。理念に掲げている「個性を尊重し、持っている力が発揮できるよう」等は、個別計画に歩行機能維持や手工芸活動等と位置づけて支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の納涼まつりや大掃除へ参加している。消防訓練に声掛けして地域からも参加している。	自治会に加入し、地域のミニデイサービスに利用者が参加している。定期的な地域との交流は少ないが、ホーム主催の敬老会に子供会エイサーや婦人会や区長等の参加がある。法人関連のデイサービス行事で利用者も一緒に参加し交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に来た方へ認知症の理解を深め相談アドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議を行い、地域との交流の仕方等色々なアドバイスをもらっている。利用者の状況や利用者も参加してもらい交流を持っている。	会議はインフルエンザ感染等の理由で開催が1回中止となり5回の開催である。委員から地域の保育園との交流方法等の情報提供やホームの状況報告やヒヤリハットや事故報告が主となっている。会議の案内は郵送か手渡しで行っているが議事録は配布していない。	会議は基準省令では2カ月に1回以上、年6回以上の開催となっており、中止ではなく日を改めた開催が望まれる。又、今後は各委員から意見をもらい、それをサービス向上に具体的に活かされることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議へ参加してもらい意見の交換をする。問題点がある時は役所に出向き担当に相談してアドバイスをもらっている。市のグループホーム連絡会に参加して意見交換をおこなっている。	行政職員とは運営推進会議や年2回の市グループホーム連絡会で情報交換が行われ共有している。又、研修会案内（介護保険改正や認知症等）もある。災害時等の受け入れはホームではなく法人が契約している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人が外出を希望するときは止めるのではなく、一緒に散歩等に出かけている。出来るだけ家族職員と連携話し合いを行い、身体拘束の時間を短縮するようにしている。	現在、安全ベルトや4点柵を3人の利用者が身体状態に合わせ、活動状況や時間帯で使用している。前回の外部評価で課題とした経過観察や検討会議については、ミーティングや申送り簿を活用し情報共有に取組んでいる。家族へは口頭で説明し同意を得て同意書を作成している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	心身の状態を観察し、本人からの情報収集に努め、虐待がないように注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の金銭管理について生活保護課の担当と連絡をとり、権利擁護の利用を話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約について家族に十分な説明をして理解納得をを図ってもらう。、		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や利用者や家族からの意見を聞きながらミーティング等で話し合っている。	利用者から「季節の服の衣替え」や「靴の購入をしたい」等の要望を居室や外出時に聞き対応している。家族からは行事案内を早めにして欲しい等の要望や日ごろの支援に対しての感謝の言葉も多くある。車を所持していない家族に対しては管理者が毎月1回自宅を訪問し意見や要望を聞いている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員の意見を聞いている。	職員意見や要望は毎月のミーティングや業務の中で聞いている。「個別ケアを重視したい」と職員からの要望で利用者別のレクリエーション計画の実施や担当職員と利用者の15分お茶タイムの導入等業務改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に研修等への参加を呼びかけ、努力や実績に応じて待遇の見直しや改善を図るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加出きるように勤務体制の調整をおこなう。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宜野湾市のグループホームへの参加や月1回の認知症の研修へ参加して情報交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話に耳を傾け状況把握に努めて、信頼関係を結ぶようにしている。本人の意見を聞きながら不安感をなくすようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族や介護保険のサービス関係者からの情報を聞き摂り、本人の不安や要望を確認して関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族と話し合いながら、、必要なサービス・支援を見極めていくようにしている。必要な福祉用具の購入をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出きる事を見つけて一緒に行なう事で信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の悩みや意見を聞きながら、家族の介護負担を軽減するようにしている。家族や職員と問題点を話し合いながら本人を支え、問題を共有して解決するようにしている。紙パンツ等の買い物を家族にしてもらい出来るだけ訪問の機会を作るようにしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のいた地域をドライブしている。愛誠園や地域のお祭りに参加して知人等会う機会を作る。	友人が利用者の好きな食べ物を持参し居室で一緒に食べなら会話を楽しんだり、同法人のデイサービスを利用している友人や知人と交流をしている。又、週に1回馴染みの豆腐店に買い物に出かけたり、家族の送迎協力で美容室に通う等関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の様子観察をして席替えをして対立がないように努めている。利用者同士に声掛けして交流の機会を作る。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々利用者の家族やケアマネと連絡をとり、情報収集して相談や支援を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族面会者と情報収集を行い、本人の希望を見つけている。	担当者会議等で利用者本人や家族から思いや意向を聞いたり普段の会話や表情等から把握している。把握した意向はプランに位置づけ、利用者は裁縫をしたり、洗濯物たたみや散歩等一人ひとりの個々の生活習慣を尊重しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族面会者と情報収集を行い、これまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の観察を行い、申し送り簿等で職員の連携をとり、本人の把握に努めている。ミーティングで利用者の状況報告をし意見交換を行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や面会時に本人家族職員と話し合い、介護計画に反映するようにしているが、なれない事もあり、まだ不十分な気がする。	介護計画は、担当職員からの聞き取り情報を得て、更新時や状況変化時による見直しがされている。評価も6ヶ月毎に行われている。個人記録簿の中にも健康面や生活面等の課題やサービス内容が細かく記入され、職員が実践できるように工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り簿や、利用者の日誌に記入して職員で情報を共有して問題点を確認して介護計画の見直しに生かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況を見ながら、受診の対応をする。家族と連携をとり、面会や本人の欲しいものを伝えて買い物をお願いする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の状況に応じて地域の祭りや愛誠園のディサービスへの参加を支援して楽しい暮らしが出きるようにする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状況を主治医へ説明・文書の交付を行い、適切な医療・連携ができるようにしている。	利用者は全員、利用以前からのかかりつけ医を受診している。受診時は家族対応を基本としているが、緊急時や、4人の利用者の定期受診は家族が高齢等の為職員が受診の支援をしている。週1回訪問看護師を受入、利用者の健康管理や個別受診等への助言を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護婦が来た時に利用者の状態を説明して適切なアドバイスをもらい、本人の状態を維悪化させないようにしている。緊急時には連絡をとり、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時のカンファへの参加をして退院後のケアに生かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と相談しながら、重度化や終末期に向けての家族と話し合いを行っている。特養への入居の相談にのり、施設と連携に努めている。	事業所は指針で、重度化又は終末期の判断や医療機関との連携、家族との信頼関係等を示している。家族の希望に対して、24Hオンコール体制ではあるが、医療連携が図れず、現状では医療的処置の有無で医療機関等への搬送等の判断基準としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体の緊急時の研修に参加して実践力を身につけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、地域の方の参加を依頼して協力体制を築いている。	災害訓練は2月に消防立会で夜間想定を、9月には昼間想定で自主訓練を実施している。昨年課題とした地域住民の訓練への参加は、防火管理者が近隣へ声かけして協力を得ている。避難訓練を年2回実施しているが、訓練時の結果や課題等の活用や、災害時の備蓄への取組が遅れている。	避難訓練は毎年1回は消防立会で実施されているので、訓練時の課題改善に繋げることが望まれる。また、災害時の備蓄の取組も求められる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、プライバシーを確保するように声掛け支援等に気をつける。	利用者一人ひとりの思いを大切にして無理強せず、さりげないケアを心がけ、利用者が自己決定しやすい言葉かけで希望や意見を聞き対応している。管理者は職員の言葉かけや対応が気になる時はミーティング等で注意するように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のしたい事を聞き取りしながら本人が出きる事を見極め支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の手が足りない事もあり、思うように出来ない事もあるが、本人の希望を優先して支援するように職員一同心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日のブラシをしたり、出かける時におしゃれをするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に声掛けしながら、献立や食材の説明をして、本人の食べる意欲を促している。利用者の重度化で準備等は出来ない事もあるが、食器拭きなど声掛けしてできることはしてもらっている。	食事は3食事業所で職員が調理し、食材の豆腐のみは利用者と一緒に近所の豆腐屋さんへ出かけて買っている。職員の食事も一緒に用意しているが、食事介助を要する利用者が多く、日中の職員体制では一緒に摂る事は厳しい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キザミ等本人が食べやすいようにしている。水分を嫌がる事もあり、出来るだけ回数を多めにして飲んでもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に声掛けして出来るだけ本人にしてもらうが、出来ないところは職員の支援により、清潔を保つようにする。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの利用者の様子観察を行い、トイレ誘導をして失禁を減らしたり、日中はトレーニングパンツから布パンツにする等職員で話し合いながら自立出きるように支援している。	利用者個別に排泄の自立支援を計画に位置付け、日中5人はトイレ誘導し、車イスから便座に移乗する間の歩行を促し、立位動作や機能維持するよう支援している。利用者の日中の動作で「尿意・便意」を察して声かけ誘導することを職員間で共有して実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけたくさんの食材を使い、食物繊維をとってもらうようにしている。ラジオ体操や踊りを一緒に行い体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、その日により体調や希望を聞き、変更する事もある。	入浴は週3回午前を基本に、利用者や家族の意向、受診前等に支援している。入浴時、立上がる動作があり2人体制だったが、次第に慣れて1人で対応している。入浴を拒む場合は、何度か声かけを試みたり、同性での入浴を希望する利用者には職員を変更して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子観察を行い、疲れている時や体調不良時等居室で眠るよう声掛けしている。声掛けして安心出きるようにする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を薬箱に貼り付け内容をかくにんできるようにしている。薬の変更等申し送り簿に記入して職員で把握出きるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出きることや好きな事を把握し能力に応じて出きることを支援する。本人に感謝の気持ちやいい所をたくさん褒めるようにする。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の皆さんで出かける機会を作り、戸外に出る機会を作っている。家族の支援をえながら外出の機会を作るようしている。	利用者の3人は日常的に散歩に出かけている。個別計画に外出の機会を位置付けた利用者はドライブや買物に出かけるよう支援している。初詣や花見、母の日等、季節や行事に合わせた外出も実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方は所持してませんが、所持している方は担当が本人の買いたいものを相談しながら買い物依頼をするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話のやりとりや家族と連絡出きるように支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事での施設内での掲示の変更を行い季節感を取り入れている。利用者間の様子を見ながら皆さんが気持ちよく過せるよう席替え等をおこなう。	事業所内はフロアを中心に居室が配置され、トイレや浴室は一か所にまとめプライバシーを確保した造りとなっている。職員は台所で調理中も利用者の様子を観察し、利用者同士の会話にも交わり場の雰囲気を盛上げている。季節に合わせて飾りつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆が集う場所と他に話をしたりする空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていた物や思い出の品を持ち込んでもらい、落ちるいて過せるようにしている。	居室は利用者の状態に合わせた環境を整えている。利用者の「自由に動きたい」の意向は、転倒予防等への安全確保も視野に床にマットを敷く事で対応している。居室ドアのオープンが多く、他者の出入りやフロアーからの視線に対する配慮が求められる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺を設置して安全に移動移乗が出きるようにしている。		